

研究テーマ：授業への積極的参加をうながし表現力を向上させるための指導の工夫

所属 土佐市立高岡中学校

氏名 中野 聡美

R G J H 5

1 研究の背景

アクションリサーチの対象としているクラスは2年生で5クラスあるうちの1クラス(男子16名、女子17名)である。すばらしい集中力で明るく、楽しく、授業ができるときもある。授業の始めのウォーミング・アップで行うリーディングマラソン(指定されたページを1分間ずつペアで読みあう)や、ALT訪問時のゲームなどは積極的によく活動できる。また、新出単語の意味発表は多くの生徒が挙手をし、指名をするのに困ってしまうぐらいである。

しかし、それ以外の活動になると参加率が低くなり、表情も暗く、限られた者のみが教師の質問に応え、その他多くの者はただただ記録をとる作業に集中し、自分では考えない、発話しないという状況のときも多々ある。

授業中行う全ての活動がリンクされ、生徒の英語能力を高めるように仕組んでいるつもりだが、それぞれの活動にきちんと取り組もうとしない生徒にとってはそのつながりは感じられない。また、英語ということばを使って活動を楽しむということに全くいたらない。よって、speaking力も listening力も writing力も reading力も高まらず。英語という教科は苦手な面白くないものであるという域からなかなか脱しえない。教師の指示が耳に入ってもそれをすぐに行動に移してくれない彼らを何とかして授業に取り組ませたい。

2 リサーチクエスチョン

授業に積極的に参加し、既習の文型を使っての自己表現力を高めるにはどうすればいいか。

3 予備調査

(1) 授業観察の結果

英語科学習指導案

1 題材 NEW HORIZON English Course 2 Reading Plus 1

2 題材観 神父と男性の行動を通して「思いやり」や「徳」とでもいうべき人間の心のありさまについて感じ、考える。

物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを読み取り、内容に応じた音読に挑戦する。

3 指導計画 全ページ・32ページ・・・1時間

33ページ・・・1時間

34ページ・・・1時間

35ページ・・・1時間

Reading 発表会・・・1時間（本時）

4 本時の指導計画

- （1）目標
- ・ 正確な発音で、内容が伝わる読み方をする。
 - ・ 班で役割分担をし、全員参加で協力し合う。

（2）指導計画

	学習事項	生徒の活動	留意事項
導入	歌 単語の復習	歌を歌う。 既習単語の発音・意味を確認する。	声が出せているか。 正しく言えているか。
展開	本時の活動の説明 班活動	説明を聞き、発表のポイントを理解する。 発表するページを決める。 役割分担をし、練習・暗誦する 評価表のつけ方について理解する。 各班、発表し、評価し合う。	練習する際にどんなことに気をつければよいかが分かったか。 各班、協力し合っているか。 肯定的な評価ができているか。
まとめ	本時の評価		次に機会にも頑張ろうと思わせる。

【観察の結果】

本来なら、全ページにわたっての音読を試みたいところだが、学期末で十分な

時間が確保できなかったため、自分たちで1ページ分を選び、1時間で取り組み方の説明、練習、発表までを行った。まず、暑い中全員が取り組んでくれるのか、短時間に暗誦し、かつ内容が伝わるようなドラマ読みができるのか、いくつか不安材料はあったが、やってみると思惑以上にこの活動に乗ってくれ、ドラマ読みとまではいなくてもほぼ全員が自分の担当分は暗誦し、前に立って顔を上げて発表することができた。また、評価カードへの記入内容もそれぞれの班の良かったところを見つけ、肯定的な評価ができていた。

中途半端な感はあるが欲張らずに1ページだけと限定したことで、これぐらいの量ならちょっと努力すれば自分でも覚えて言えそうだ、という見通しが持て取り組めたのではないかと考える。そして、発表してみて、みんなの前でそれなりにできたという成就感や「もう少し頑張ればもっとうまくできたはず。次の機会には頑張りたい。」という意欲につながったと思える。

本時の場合、教師側は指示をするか、班活動の支援にまわるかという役割であったが、説明の際に英語で言った後、つい日本語で同じ指示を繰り返してしまい、くどい感がある。

(2) 英語力を示すデータ

C R Tの結果を添付

(4) 生徒の自己評価

授業で使うワークシートの最後にその時間の活動内容にしたがって自己評価項目をつけてある。以下は“Reading Plus 1”と“Unit 3”についての解答内容である。

Reading Plus 1

「今日のReading 発表会への取り組みはどうでしたか。」

- ・ 覚えるのは大変だったけど、頑張った。みんなで協力できた。
- ・ 途中で笑ってしまったので、今度やるときはちゃんとやりたい。
- ・ 以外にみんなだいたい覚えていた。声もみんな大きかった。
- ・ 全体的にドラマ読みができていない。
- ・ 自分の言うところは覚えていて良かった。けっこう大変だった。
- ・ もう少し時間があつたらもっとスラスラ読めていた。
- ・ 楽しかった。こんな授業もどんどんやっていきたいと思った。
- ・ スラスラ読めている班があつたし、声の大きい人もいたから良かったと思う。けど、つまらなかった。

- ・ 英語も覚えようとしたら簡単に覚えれた。
- ・ 短時間だったけれど自分なりにできた。
- ・ 覚えようとしてやってくれた人は良かった。けど、始めからやる気なしの人には頭にくた。

Unit 3 (解答 30名)

(1) 不定詞の使い方が理解できましたか。

できた	4	だいたいできた	12
あまり分からなかった	10	分からなかった	4

(2) 分かるところは発表したり、質問に反応したりできましたか。

できた	5	だいたいできた	13
あまりできなかった	8	しなかった	4

インタビュー活動について

(3) すすんで活動に参加できましたか。

できた	5	だいたいできた	14
あまりできなかった	7	しなかった	4

(4) 日本語を使わずに話しましたか。

話した	5	少し日本語を使った	18
たくさん日本語を使った	7		

4 仮説の設定

仮説 1 「 1 時間の授業の中に含まれる活動内容の種類を多くして、単調にならない
繰り返しの短時間でこなしていくようにすれば、集中力が持続し、授業への参加が良くなる。」

仮説 2 「 ペア活動や小テストなどで語彙や基本文の知識を増やし、語順指導を常に

行っていけば、自分の表現したい英文が書けるようになる。」

仮説3 「あいづちやつなぎのフレーズを意識しながら目標文型を使ったインタビュー活動などを組み込んでいけば、ある程度まとまった会話ができるようになる。」

5 計画の実践と結果

仮説1 について

各ユニット・パートごとの重点項目にそった活動の他に、できるだけ多くの活動が組み込まれるように案を立て、そのうちのどれか1つはゲーム形式のものを取り入れて、スピーディにかつリズムカルに授業を行うようにするという目標で毎時間の授業に臨んだ。

読み取りが重点項目のパートでは、内容理解に時間がかかり、集中が持続しなくなるので、本文についてのインタラクションをなるべく簡単な英文を用いて、フラッシュ・カードを示しながら行い、大まかなポイントをあらかじめつかませ、読解の時間の短縮を図った。そして、一通り理解したあとで、重要な基本文については設定した時間内（30秒～1分）に何回も repeating したり、writing したりして定着を図った。自分で分を考えるのではなく、一度学習をして読み方もその意味も理解できている分を繰り返し言い、書くという作業は、英語を苦手とする生徒にもやりやすく、参加度は90パーセント以上であった。また、この作業の直後に、少し語を入れ替えた pattern practice を行うと、ほとんどの生徒が英語で言えることができ、達成感を感じることもできた。

仮説2 について

1つのユニットが終わるまで、そのユニットに出てくる新しい単語や語句を授業の始めに repeating させたあと、ペアで読み合わせやクイズ形式で確認をさせた。ペアの組み合わせにより、活動をしないう生徒も一部見られるが、クラスの間関係を作り、英語学習を円滑に行うために、ペア活動は大切なものだと説明し、よく協力ができているペアにはポイントをあげるようにした。

一学期に比べて、和やかな雰囲気ですぐ相手のほうに体をむけて活動ができるようになったと思う。やる気はあっても、一年次からの基礎力が不足しているため英語が読めず、やろうにもやれない生徒がいることが分かり、不本意ではあるが、新出単語の学習時にカナをふることにした。また、ユニットが終わるごとに単語テストを行ったが、意識して勉強してくる生徒は1/3ほどで、語彙の拡充には十分な成果は果たせなかった。

また、英語の基本となる語順を教科書の読解をするときも、英作をするときも「それが？どうするの？何を？どこで？いつ？」と常に意識をさせた。まだ、自分たちでチャンクには区切れないものの、フレーズごとに区切った問いかけには十分答えられている。

基本文を使っただけの自己表現も毎回試み、定期テストにも10点配点で重みをつけて出題した。最初は例文を参考に単語を入れ替えるぐらいの文であったが、一文で終わるのではなく、意味のあるまとまった文章を書けるように、能力に応じて関連する文のつなぎ方を教えていった。良い作品にはそのつど評価を入れ全体に紹介し、目標とさせた。基礎力がある生徒はめきめきと書く力がつき、二学期期末テストに出題した次の問題には、以下のような文を答案用紙に書けるようになった。

【2学期期末テストより】

授業で習った動名詞のポイントを使って「自分のこと」を紹介する文を書きなさい。それぞれの文は3語以上で、全ての文に動名詞を使う必要はありません。できれば意味的につながりがある文章を作ってください。ピリオドやコンマなどの符号もきちんとつけること。

考え方のヒント あなたは何をするのが好き？何をして楽しむ？

何をするのが趣味 (hobby) ？

「生徒の解答より」

- My name is . My hobby is playing the piano. And I like reading books very much, too. I'm reading " Harry Potter " now. I'm going to a book store to buy a new book. Reading a book is a lot of fun.
- I like talking and playing with my friend. On Sundays I usually go to my friend's house. But I must stay home this Sunday because I will have tests on Monday. I have to go to juku and study hard this evening. Studying is important.

仮説3について

教科書に出てくる基本文型を使ったコミュニケーション活動を組み込んだ。インタビューをし、相手の答えによって自分のビンゴ・シートにチェックが入っていく

タイプのものは、よろこんで参加する生徒が多かった。どのタイプの活動も最初はお互いあいさつから始め、相手が言ったことに対して必ず何らかの応答をする習慣をつけるように心がけさせた。

毎回活動に入る前に、以下のようないくつかの返事のパターンを確認する。

That's good. Great! Me, too. Oh, really? Lucky you.
That's sounds interesting. Uh-huh. That's too bad.
That's a shame.

そして、相手の言った内容を正確に聞き取り、それに会う返事をパターンの中から選択し、応答をしてから次の文に移る。そして、その会話の間に使える、聞き返すときや考えているときに言うフレーズなどもできるだけ使用させ、投げられたボールは必ず受け止め、投げ返す練習をさせていった。また、活動の間よく観察をし、活動後、よくできていた点を具体的に肯定評価していった。

ほとんどの生徒が相手の言ったことに対してなんらかの応答はできていたが、与えられたパターンの中から、話しの内容に一番適切であると思われる言い方を選択して何種類課のパターンを使用できているのはごく一部で、大部分は Great! や Uh-huh. など同じ応答文を使っていることが多かった。

しかし、Hi. のあいさつから Bye. まで、例に示された語句を使いながらであるが、ある程度まとまった対話ができていたのではないかと思われる。

6 結果の検証

授業アンケート

(1) あなたは英語が好きですか。

	9月	12月
大好き	16.1%	22.5%
どちらかというとき好き	19.3%	38.7%
どちらかというとき嫌い	48.3%	22.5%
大嫌い	16.1%	16.1%

(2) あなたは英語の授業に積極的に取り組んでいますか。

	9 月	1 2 月
取り組んでいる	1 9 . 3 %	4 1 . 9 %
どちらかというに取り組んでいる	2 5 . 8 %	3 2 . 2 %
どちらかというに取り組んでいない	2 9 . 0 %	9 . 6 %
取り組んでいない	2 5 . 8 %	1 6 . 1 %

(3) あなたが授業の目標とした項目にあてはまるものを多い順に 3 つ選んでください。

	1 2 月
英語らしい発音で言える	2 2 . 5 %
話することができる	3 2 . 2 %
聞き取りができる	2 5 . 8 %
読み取りができる	3 8 . 7 %
書くことができる	4 1 . 9 %
単語・語句を覚える	6 4 . 5 %
文法を理解し運用できる	7 4 . 1 %

(4) 2 学期の学習を追えて、自分で頑張った、力がついた、目標が達成されたと思うことは何ですか。 3 つまで選んでください。

発表をした	5 1 . 6 %
集中して頑張れた	4 1 . 9 %
テスト勉強ができた	1 9 . 3 %
ペアやグループでの活動をきちんとやった	5 4 . 8 %
家庭での学習をした	1 6 . 1 %
新しく出てきた単語を覚えた	3 2 . 2 %
発音に気をつけて読めた	9 . 6 %
以前より会話ができるようになった	1 6 . 1 %
以前より文が書けるようになった	9 . 6 %
以前よりスムーズに読めるようになった	2 5 . 8 %
英語の歌を覚えた	1 2 . 9 %

on – task behavior と off – task behavior の生徒の割合の変化

field note より

(9 ・ 1 0 ・ 1 1 ・ 1 2 月の第 2 週に観察)

A 85%以上 B 40～84% C 39%以下

(その時間にあてはまる活動がなかったときは空欄)

	song	warm up	review	target sentence	pair, group work	listening	reading	writing
9 月	A	A	B	B	B			B
	A		A		A		B	A
	A		A	A	A	A	B	
10 月	B	B	A	A		A	A	
	B	A		A	A		A	A
	C	B	B			B	B	
11 月	B		A	A	A			A
	B	A	B			A	A	A
	A		A	A	A	A	A	
12 月	A		A	A	A	A		
	B	A		A	B	B		
	B		A	A	A		A	A

7 成果と今後の課題

成果 : field note やアンケートの結果から日によっても違ってくるが、一学期当初の状態から比べると、授業への参加度は格段に上がったと言える。

仮説 1 については、自分自身がうまく実践できないことも多々あり、実

践方法での工夫が必要だ。仮説 2・3 については、ある程度の成果が感じられ、今後も指導を続けていきたい。

課題 : 授業テクニックを磨く。
語彙指導・語順指導を工夫し、生徒自身が自発的に努力しようとする方法を考える。
を writing や speaking につなげてできるだけ多くの量の表現ができるような指導の工夫。

とにかく授業に参加させたい。それぞれの活動にきちんと取り組むことで自然と力をつけさせたいという思いから設定したテーマであったが、振り返ってみると、

授業が成立する基礎にあるものは、教師と生徒そして生徒どうしの良い人間関係であるをつくづく思う。声を出すことを、ペアやグループで活動することを、お互いに学びあうことを容易にさせる comfortable な学習環境作りをなしにしては何も積み上げていくことはできないと改めて感じた。

今後、「学びの場」としての環境整備に努力しつつ、少しでも「分かった。楽しい。もっと勉強しよう。」と思わせるような授業をし、英語の力をつけられるように、これからもアクション・リサーチに取り組んでいきたい。